

平成30年度
教育委員会事務の点検及び評価報告書

令和元年6月
橋本市教育委員会

はじめに

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会が行う事務として、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が新たに規定されました。

橋本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明を果たすため、有識者会議を設置し、教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、橋本市教育委員会ホームページで公表しています。

平成 30 年度は、教育委員会事務全般について点検及び評価を行いました。

点検及び評価の実施を通じて施策の効果を検証し、絶えず改善を図りながら、教育施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、市民の皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

令和元年 6 月

橋本市教育委員会

目次

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価結果の構成	1
4 学識経験者の知見の活用	1
5 議会への提出及び公表	1

II 教育施策の点検及び評価

橋本市教育大綱	2
---------	---

各重点的な取組の評価シート

(1) 豊かな心を育みます

ア 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭支援を推進する。	3
イ 家庭や学校、地域での人権意識の高揚に努める。	7
ウ 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰）を推進し、道徳性を育てる。	10
エ 地域文化や芸術、スポーツに親しむ場を提供する。	12
オ 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。	14
カ ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。	15

(2) 多様な学びと健やかな体を育みます

ア 基礎学力を基盤とし、主体性のある学びを推進する。	16
イ 学校・公民館を通して、多様性・共同性の学びを推進する。	19
ウ 保育園・幼稚園・こども園・小学校の連携及び小中一貫教育の充実に努める。	20
エ より良い学びの場のための教育環境を整える。	21
オ 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・ICT・国際理解）を推進する。	24
カ 読書活動の推進に向けて環境を整える。	25
キ 文化施設・社会体育施設（学びの場とスポーツに親しむ場）の充実に努める。	27
ク 食の大切さの学びを推進する。	29

(3) 地域・家庭・学校の連携を育みます

ア 公民館単位で「共育コミュニティ」を組織し、地域の活性化を推進する。	31
イ 地域の教育力を学校教育に生かすために、学校開放に努める。	32
ウ 学校や地区公民館を拠点として地域の学びと交流を推進する。	34
エ 福祉と教育が連携し、安心・安全、学びのまちづくりを推進する。	37
オ 子どもの健やかな成長に向けて「橋本市子どもスマホ宣言」を推進する。	38

Ⅲ 教育委員会の活動状況	
1	橋本市教育委員会機構図 40
2	教育委員会の会議等の活動状況
(1)	橋本市教育委員会委員 41
(2)	教育委員会会議の開催状況 41
(3)	教育委員の活動状況 41
(4)	教育功労賞 41
Ⅳ 関連資料	
1	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋 42
2	教育委員会事務の点検及び評価実施要綱 42

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的

教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その平成30年度の成果及び課題等について自ら評価することにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出して、公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進します。

2 点検及び評価の対象

平成30年度の「橋本市教育大綱」の基本方針と重点目標の取組状況について、点検及び評価を行います。

3 点検及び評価結果の構成

○ 施策の柱

「橋本市教育大綱」における19の重点目標

○ 重点的な取組

基本方針の柱ごとの目標を達成するための51の重点的な取組について「評価シート」を作成し、その概要、指標、平成30年度の目標・実績・評価、課題・今後の方向性を記載しています。

○ 課題・今後の方向性

有識者会議における意見等を踏まえ、目標の達成に向けた課題と今後の対応や方向を示しています。

4 学識経験者の知見の活用

点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、以下の日に会議を開催し、点検及び評価の実施方法並びにその内容等について御意見をいただきました。

第1回有識者会議 平成30年12月19日

第2回有識者会議 平成31年2月13日

第3回有識者会議 平成31年2月27日

第4回有識者会議 平成31年3月6日

◎教育委員会事務の点検及び評価に係る有識者会議委員名簿

氏名	役職等	備考
たにじり おさむ 谷尻 治	和歌山大学教育学部 教職大学院教授	教育学（教師教育、学級経営、集団づくり、生活指導）
いぬい こうはち 乾 幸八	橋本市区長連合会会長	
なべた りえ 鍋田 理恵	橋本市PTA連合会会長	柱本小学校PTA会長

任期：平成30年12月19日～平成31年3月31日

5 議会への提出及び公表

令和元年6月議会に報告書を提出するとともに、橋本市教育委員会のホームページに掲載します。

<http://www.chw.jp/shisei/kyoikuiinkai/sesaku/tenken.html>

橋本市教育大綱

[理念] 人が学びあい、共に育むまちづくり

－ 自立と共生のまち橋本市に向けて －

[基本方針と重点目標]

(1) 豊かな心を育みます

- ア 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭支援を推進する。
- イ 家庭や学校、地域での人権意識の高揚に努める。
- ウ 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰）を推進し、道徳性を育てる。
- エ 地域文化や芸術、スポーツに親しむ場を提供する。
- オ 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。
- カ ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。

(2) 多様な学びと健やかな体を育みます

- ア 基礎学力を基盤とし、主体性のある学びを推進する。
- イ 学校・公民館を通して、多様性・共同性の学びを推進する。
- ウ 保育園・幼稚園・こども園・小学校の連携及び小中一貫教育の充実に努める。
- エ より良い学びの場のための教育環境を整える。
- オ 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・ICT・国際理解）を推進する。
- カ 読書活動の推進に向けて環境を整える。
- キ 文化施設・社会体育施設（学びの場とスポーツに親しむ場）の充実に努める。
- ク 食の大切さの学びを推進する。

(3) 地域・家庭・学校の連携を育みます

- ア 公民館単位で「共育コミュニティ」を組織し、地域の活性化を推進する。
- イ 地域の教育力を学校教育に生かすために、学校開放に努める。
- ウ 学校や地区公民館を拠点として地域の学びと交流を推進する。
- エ 福祉と教育が連携し、安心・安全、学びのまちづくりを推進する。
- オ 子どもの健やかな成長に向けて「橋本市子どもスマホ宣言」を推進する。

平成30年度教育委員会事務の点検及び評価「評価シート」

重点的な取組	No.1 (1)-ア-①	子育て、親育ち講座の充実を図ります。	
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における子育てのあり方について、就学前並びに小学校低学年の保護者を対象に講座等を開催します。 ・子育てをテーマとして、「子育て講座」を開催します。 ・学校・福祉部局等の関係機関と連携のもと、子育てのあり方について考え、子どもの成長・発達を社会全体で見守る地域コミュニティづくりをめざし、子どもを取巻くよりよい教育環境の向上に努めます。 ・地域支援者の養成に努めます。 ・保護者が子育てに喜びを感じられるように働きかけます。 		
成果指標①	指標名・内容	地域支援者養成講座・子育て支援講座の実施	
	平成30年度の目標	地域で子育て支援をすることに興味を持ってもらえるよう、内容を考え前年度と同様に地域支援者養成講座・子育て支援講座を開催する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度地域支援者養成講座を3回開催、参加者は延べ80名。 ・子育て支援講座を1回開催予定。(H31.2.14開催予定) ・本年度は、地域住民が子育てに関心を持ち、積極的にかかわろうとする意識を培い、「地域の担い手」を育成することを目的に講座を開いた。 ・幅広い世代からの参加があった。アンケート結果からは、「たくさんの気づきがあった」「現場に戻ったら実践してみようと思う」などの声を多く聞くことができた。(H30.12月末現在) 	
	評価	B	A: 達成 B: 概ね達成 C: 不十分 D: 未達成
成果指標②	指標名・内容	保護者間のつながりづくり	
	平成30年度の目標	開催回数は、現状維持とし、保護者同士のつながりができるよう、関係機関と園が連携して講座等の内容を工夫する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームによる講座を97回開催(就学時健診含む)。 ・保護者同士のつながりづくりを中心に講座を展開した。 ・特に就学時健診時のワークにより、知り合いのいない保護者にとっては不安が軽減されたとのアンケート結果も得た。(H30.12月末現在) 	
	評価	A	A: 達成 B: 概ね達成 C: 不十分 D: 未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者養成講座については、地域の担い手を育成することを目的に開催し、参加者数を増やすために周知方法等を検討していく。 ・就学時健診時による保護者同士のつながりづくりについては、依頼がある限り今後も実施していきたい。 		

重点的な取組	No.2	教育相談センターを中心として、子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」など各専門機関と連携し、支援を行います。
	(1)-ア-②	
担当部署	教育相談センター、青少年センター	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を整理し、問題解決に向けての有効な支援を検討します。 ・学校・福祉機関(子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」)や医療機関等と連携して、効果的な支援を行います。 ・福祉制度の活用等を通してソーシャルワーク的な支援を行います。 ・子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」など関係機関が集まり、課題を検討するケース会議を活用します。 ・臨床心理士等の専門家による支援を行います。 	
成果指標①	指標名・内容	長期欠席児童生徒数(不登校児童生徒数を含む)の低減
	平成30年度の目標	平成29年度長期欠席児童生徒数より10%減(102名を90名に、うち不登校児童生徒数48名を45名)に取り組む。
	平成30年度の実績	・来所及び派遣相談において、相談内容を分類すると、小学校では「発達・養育に関すること」が32%、「行動・行為に関すること」が19%、中学校では「登校に関すること」が45%、「発達・養育に関すること」が20%であった(H30年12月末現在)。以上の実績から、小学校では未然防止を、中学校では学校復帰をそれぞれ目指した相談活動を実施してきている。
	評価	<p style="text-align: center;">C A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・予測では目標の達成は難しいが、福祉部局、SC等関係機関との連携が可能となったことから、より円滑に、迅速に、効率よく対応することができた。</p>
成果指標②	指標名・内容	不登校児童生徒の受け入れ
	平成30年度の目標	社会的自立や学校復帰を目指した適応教室の充実を図る
	平成30年度の実績	・適応教室指導員とともに、子どもの支援に携わってもらうボランティアとしての「メンタルフレンド」の人数と日数を増加(147日の開室中、85日の参加があり、延べ130人であった。(H30年12月末現在))した。
	評価	<p style="text-align: center;">B A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・指導員の適切な関わりとボランティアの応援により、適応教室の利用生のほぼ全員が、完全復帰とはいかないまでも、条件付で復帰することができた。</p>
成果指標③	指標名・内容	教育相談の充実、教職員に対する支援の充実
	平成30年度の目標	子ども・保護者に対する心理的支援の充実を図る。 学校教育と心理の双方に関する専門的知識を持った教職員の育成を行う。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・年間相談件数457件1,365回、派遣(学校訪問)による教職員に対する助言をのべ882回実施した。(H30年12月末現在) ・夏季休業中に大学教授を講師に招き教職員対象の事例研究を実施し23名の教員の参加があった。
	評価	<p style="text-align: center;">A A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・来所及び派遣により、心理的不適応児童生徒及びその保護者への支援ができた。また、派遣相談と夏季研修に教職員の資質向上に寄与した。</p>
成果指標④	指標名・内容	非行防止活動の実施
	平成30年度の目標	補導件数が増加する長期休業中の補導活動を強化する。
	平成30年度の実績	・学校・警察・青少年センター連絡協議会及び橋本市青少年補導員会と連携し32回の補導活動を実施した。

評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
	・各学校及び関係機関と連携し、補導活動ができた。	
課題・今後の方向性	・各学校及び関係機関とともに、協力体制を強化しながら補導活動を充実させる。	

重点的な取組	No.3	学校・家庭・地域・関係機関との連携を深め、青少年非行の未然防止活動に努めます。	
	(1)-ア-③		
担当部署	青少年センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市青少年補導員・学校教職員と協力し、夜間や長期休業中、夏祭り、秋祭り、夜店等の補導活動を行います。 ・不安を持つ青少年、保護者、学校等からの来所・メールによる相談を受理し必要に応じて専門機関と共同での指導や連携を行います。 ・有害図書を「やぎの箱」で回収するとともに、各商店や大型量販店、遊戯場等に協力要請を行います。 ・事故防止、環境浄化等の看板を作製設置します。 ・少年に関する情報や資料を収集し、センターだよりやちらし、看板、オリジナル教材等による啓発活動を行います。 ・善行児童生徒の表彰を行います。 ・非行少年等の立ち直りを支援します。 ・学校・警察・青少年補導員会等と情報交換を行い、必要に応じて研修を行います。 ・近畿・県・紀北地区青少年センター連絡協議会等との情報交換や研修を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	立ち直り支援の充実	
	平成30年度の目標	青少年の心情を吐露することの出来る場を提供し、精神的な安定を図る。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち直り支援、居場所作りを大切に召致指導を12回のべ4人に対して実施した。 ・継続的な指導を実施することで、青少年だけでなく保護者にとっても精神的な安定を得られる場所になっている。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・継続的な立ち直り支援を含め、青少年・保護者への指導助言をおこなった。	
成果指標②	指標名・内容	環境浄化活動の実施	
	平成30年度の目標	引き続き回収を行う。	
	平成30年度の実績	・有害図書（雑誌・DVD等）240点、一般図書123点回収・処分した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・4つの駅を中心に月に一度回収及び処分をした	
課題・今後の方向性	立ち直り支援を含め、健全な青少年の育成のため環境浄化・相談活動を充実させる。		

重点的な取組	No.4	橋本市家庭教育支援チーム事業を推進し、家庭教育支援の充実に努めます。	
	(1)-ア-④		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・親の集まる場を設定し、「食育」「家読」などのテーマで語り合いを行います。 ・家庭教育情報誌「げんきっこfamily」を年4回発行します。 ・家庭訪問し、子育ての悩みを聞いたり、必要とする情報を提供したりすることで、親の子育ての不安が軽減できるよう努めます。 ・就学時健康診断の場を活用し、就学に対する不安や悩みの語り合いの機会を設けます。 		
成果指標①	指標名・内容	家庭訪問の実施	
	平成30年度の目標	不安や悩みをかかえたまま、孤立する家庭が1件でもなくなるように福祉部局と連携しながら家庭訪問を実施する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問は8家庭（うち1家庭は訪問終了） ・家庭訪問実施件数は54件（ケース会議は9回）（H30.12月末現在） 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に入り、新規の個別相談が2件あった。その内、1件は無事に相談を終了できたが、訪問を継続している家庭に対し、大きな変化が見られなかった。 	
成果指標②	指標名・内容	子育て・親支援講座の充実	
	平成30年度の目標	前年度と同様に、家庭教育支援チームによる親支援講座を開催する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームへの各園・各校・公民館等からの依頼に基づき講座（就学時健診含む）を開催した。 ・保護者同士のつながりづくりを実施した。 ・前年度に引き続き、保育園・幼稚園・小学校・公民館等から講座の依頼があり、アンケート結果からは「息抜き時間が持てた」「いいリフレッシュになった」などの意見が多く聞くことができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、昨年と同様の数の講座依頼が見込まれている。また、現在の子育て事情を知ることがを目的に、新たな講座を展開した。新たな講座を展開することで、個別相談へと繋がったケースもあり、一定の成果があったと感じる。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘスティアが結成されてから10年以上経ち、今と昔では子育てに対する考えやニーズが大きく変化していると感じる。その中で、ヘスティアとして担う役割の再確認および明確化を図り、ニーズにあった支援が提供できるように考えていきたい。 		

重点的な取組	No.5	子ども館・児童館活動を充実させ、各種事業を実施します。	
	(1)-ア-⑤		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格的な発達に必要な「遊び」と「創造」の意義をふまえ、各館の事業の充実に努めます。 ・学校との連携を深め、移動児童館事業、学校授業への支援を充実します。 ・児童厚生員は積極的に研修に参加し、資質と力量の向上に努めます。 ・地域子ども会が子どもと親にとって、共に育ちの場となるよう支援します。 ・異年齢間の交流や中高生の居場所・子育て支援の場等、誰もが楽しく過ごせる安全安心な居場所を作ります。 		

成果指標①	指標名・内容	児童健全育成の場としての各種事業の実施	
	平成30年度の目標	子ども館・児童館の事業については、児童生徒数は減少傾向にあるが事業参加者数は、例年と同等数を目標として企画する。	
	平成30年度の実績	<p>・各児童館の事業参加者は、(12月末時点)</p> <p>きしかみ子ども館 2,008名</p> <p>はらだ子ども館 647名</p> <p>友愛児童館 601名</p> <p>名古屋児童館 1,343名</p> <p>移動児童館・体育館 613名</p> <p>授業 各1・2月に実施(15全小学校)</p> <p>夏休み子どもまつり 556名</p> <p>「どんどこプロジェクト【NPO協働事業】」 2,955名</p> <p>・各館で特色のある事業を企画し、年間計画を基に季節の行事や手作り教室・クッキング・遊び等の様々な催しを実施した。</p> <p>・移動児童館では、体育館実施・授業での季節の手作り教室共に市内の全15小学校で実施し、学校との連携も深まった。</p> <p>・子ども読書推進計画に基づき、図書室の環境を整えることができた。</p> <p>・4年連続して実施した【どんどこプロジェクト】(子どものための児童館とNPO協働事業)で制作した子どもが自ら描く安全啓発の看板は、橋本中央中学校・隅田中学校区地域の協力も得て設置した後も維持管理と共に、引き続き子どもの安全を願って見守り、学校・地域との繋がりが更に広がっている。</p> <p>・夏休み子どもまつり・すこやか橋本まなびの日・3世代交流フォーラムにおいて、今年度の【どんどこプロジェクト】のテーマである『橋本式「地域コミュニティ」で子どもの遊びを！～「遊び・おもちゃ」伝承文化にふれ、地域を知り、行動し、楽しむ』では、地域に伝わる文化や地場産業を知り、体験を通して子どもも大人も気付き、地域の方々の協力を得ながら楽しむことができた。また、「遊びとおもちゃ」についてアンケート調査を行い、現在の子どものと昔の子ども(大人)の違いや傾向を知ることができた。</p>	
	評価	A	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
課題・今後の方向性	<p>・児童生徒数が減少し、授業時数が増え、帰校時間が遅くなったこともあり、事業参加がしにくくなっている。各館の現状あわせ工夫をする必要がある。</p>		

重点的な取組	No.6	人権教育啓発教材の作成と活用を図り、人権教育の推進に努めます。
	(1)-イ-①	
担当部署	学校教育課・生涯学習課	
具体的な施策	・人権教育学習資料の充実に努めます。	
	指標名・内容	人権プロジェクトによる人権教育啓発資料の作成
	平成30年度の目標	作成した資料を全戸配布して、同和問題を橋本市で生活する全ての人々に気づき学んでもらう。

	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より人権教育啓発資料作成主担当が人権・男女共同推進室となった。資料を全戸配布し、平成31年5月に全戸配付をめざして現在作成中。言葉を選んで遂行中。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	学校における人権教育の充実	
	平成30年度の目標	各校の状況により計画の見直しを行い、人権教育の更なる充実を図る。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 全小・中学校において人権教育全体計画を作成し、各校の状況に応じて重点課題を定めて人権学習の充実を図ることができた。 人権教育副教材「しあわせ」をはじめとする教材・資料を活用するとともに、外部人材からの講話や体験活動等とおして人権学習を進めることができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育で活用している人権教育副教材「しあわせ」は、2020年度に改訂を予定している。新たな人権課題等も踏まえ、児童生徒が幅広く人権について学べるような教材を選定していきたい。 人権プロジェクトによる人権教育啓発は、メンバー内で次年度はどんなテーマで誰を対象とし、どんなものを作成するかを決定する。啓発される側の気持ちに添って作成していく必要がある。 		

重点的な取組	No.7	学校における人権教育の充実を図り、学級等の集団づくりの充実に努めます。	
	(1)-イ-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 「橋本市人権教育基本方針」に基づき、小・中学校では副読本「しあわせ」等を活用した計画的・系統的な人権教育を実施し、豊かな人権感覚を持った児童・生徒の育成に努めます。 望ましい集団活動を展開し、集団の中で自他の価値を見いだせる仲間づくり・学級づくりを推進します。 自己肯定感と思いやりの芽生えを育てます。 		
成果指標①	指標名・内容	仲間づくり・学級づくりの推進	
	平成30年度の目標	新しい手法にも取り組んだり、活動内容を見直したりして、よりよい集団づくりを実現する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 学級集団での児童・生徒の状況を把握するためアセスメントの実施を推奨し、グループアプローチについての研修会を実施した。 市内中学校生徒会交流会（橋本市生徒会連絡協議会主催）の企画・運営を支援し、参加生徒が学校のリーダーとしての意識を高め、他校の生徒との交流で経験したことを本校での活動につなげることができた。 教科等の授業においても、児童生徒同士が互いの発言を大切に、聞き合えるような授業づくりについて指導を行ない、実施を進めてきた。 園では幼児の興味・関心を探りながらルールのある遊びやごっこ遊びを工夫した。夢中になって友達とイメージを共有しながら遊ぶ中で、自信を持って取り組んだり、友達と共通の目的を持って活動したりすることを楽しむ姿が見られた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の様々な場面において、学習の基盤となる学習集団の育成に努めた。 ・幼児なりの発想を生かし、じっくりと話し合いながら活動を進めたことが、自信や協同性の育ちにつながった。 	
成果指標②	指標名・内容	異年齢の関わり	
	平成30年度の目標	現状の取り組みを継続し、自己肯定感や思いやりの気持ちの育ちにつなげる。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児や祖父母、地域の人との交流を年間計画に位置づけ、実施した。 ・異年齢で関わる活動を日常的に計画、実施した。年長児の姿に憧れ、興味を持って活動しようとする年下の幼児や、年下の幼児に視線を合わせて関わる年長児の姿が見られた。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の役割分担を明確にし、連携して取り組めた。 	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児や地域の人等との交流では、互惠性のある活動内容となるように配慮する。 ・異年齢の関わりによる幼児の育ちを、関わった人たちに丁寧に伝えていく。 		

重点的な取組	No.8	いじめの未然防止を図ります。	
	(1)-イ-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育や道徳教育等の充実を図り、児童生徒の人権意識の向上を図ります。 ・「橋本市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、いじめを認知した場合は、教職員、保護者、地域住民、関係機関等との連携を図り、迅速かつ適切に対処します。 		
成果指標①	指標名・内容	いじめ認知件数の減少と解消率の向上	
	平成30年度の目標	いじめ未然防止のため、日頃から児童生徒の様子に目を配るとともに、アンケート等で認知した事案に対して素早く対応し解決する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ認知件数826件、解決件数757件。 ・年間1回以上のいじめに関する研修会を開催した。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃より教職員全体で児童生徒の様子に目を配り、早期発見早期対応をおこなっている。また、いじめに関する研修等も積極的に実施し、いじめを見逃さないよう努力している。また、道徳教育等の充実を図り、人権意識向上のための実践をおこなった。 	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標②	指標名・内容	いじめの早期発見のためのアンケートの実施総数	
	平成30年度の目標	現状を維持する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各校とも年間3回以上いじめに関するアンケートを実施した。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・各校とも年間3回以上のアンケートを実施し、早期発見早期対応に努める事ができた。 	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見・早期対応できるよう、日頃から児童生徒に目を配る。また、アンケートについても年3回以上実施し、いじめが継続していないかを確認していく。 		

重点的な取組	No. 9	「人権講演会」などを開催し、人権教育の充実に努めます。	
	(1)-イ-④		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	・人権を尊重し、人権意識を高めるために、次の事業に取り組めます。		
成果指標①	指標名・内容	各地区公民館にて講演会や映画上映会への参加数	
	平成30年度の目標	引き続き精力的に事業に取り組み、全職員の参加を目指す。	
	平成30年度の実績	・全国・近畿・県合同の公民館大会、人権研修等の各種研修会に精力的に参加することができた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
・精力的に参加することができた。			
課題・今後の方向性	・人権意識を高めるため、引き続き取り組んでいく。		

重点的な取組	No. 10	道徳教育の推進に努めます。	
	(1)-ウ-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において、子どもの実態を踏まえ、学校や学年の段階ごとに道徳の時間を中心に取り組めます。 ・道徳教育の充実に向けて、授業改善等の研修を行います。 ・家庭や地域の方々との連携を図りながら、道徳性の育成に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	各校における道徳教育の年間計画作成とその実施	
	平成30年度の目標	年間指導計画を見直す。	
	平成30年度の実績	・各小・中学校において年間指導計画や別様（各教科との関連）を見直すことができた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
・小学校では、「特別の教科 道徳」の本格実施に伴い、新しい内容項目に沿った年間指導計画や別葉を作成することができた。			
成果指標②	指標名・内容	道徳の研修会等の実施	
	平成30年度の目標	道徳教育研修会を年間1回以上実施する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育研修会を夏季休暇中実施し、伊都地方の先生方が約100人参加した。 ・学校によっては、道徳科の研修を自校で実施しているところもあった。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
・広く伊都地方の先生方にまで声をかけたため、大勢の参加となった。本年度、小学校で本格実施である「特別の教科道徳」の授業づくりと評価について、先生方の関心が高く、大勢の参加となり、充実した研修会だった。			
成果指標③	指標名・内容	基本的生活習慣の確立	
	平成30年度の目標	学校と家庭が連携して、早寝・早起き・朝ご飯の推奨、授業規律の徹底、挨拶運動・清掃活動を推進する。道徳の時間等により規範意識を高める。	

	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較すると、「朝ごはんを毎日食べる」「決まった時間に寝て起きる」「学校の決まりを守る」に概ね向上が見られた。 ・各小・中学校において児童会・生徒会活動で挨拶運動を実施した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の本格実施が、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度からとなっており、それに向けての授業改善や教材解釈等についての研修を重点的に数年間行ってきたが、一定の成果が出つつあるため、研修会については、平成31年度を最後にし、他の教科での研修会を開催したいと考えている。 		

重点的な取組	No.11	中学生ボランティア・青年リーダーの育成に努めます。	
	(1)-ウ-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの校外活動を促進するとともに、青年リーダーの育成に努めます。 ・中学生ボランティア・青年リーダー活動を推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	青年リーダーによる研修会の開催、次世代の青年リーダー候補の育成	
	平成30年度の目標	青年リーダー26名 中学生ボランティア42名 引き続き事業として「子ども冒険村」「ジュニアリーダー研修会」を実施する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青年リーダー：目標数値を大きく越える42名の増員となった。高校へ募集説明会を開催することにより、会員を募ることが出来た。また会員同士で創意工夫することにより、次世代の育成に繋がる活動が出来た。 ・中学生ボランティア：ジュニアリーダー研修会を開催することにより、会員数44名と目標を超えた。(12月現在) 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・会員のモチベーションの維持や魅力的ある活動にしていくことを今後の活動に繋がるため活動方針を検討していく。持続的な活動を今後も継続していきたい。 		

重点的な取組	No.12	態度教育の推進に努めます。	
	(1)-ウ-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校が連携し、就学前教育から積極的に態度教育に取り組みます。 ・学校教育において、保護者や地域の方々と連携を図り、子どもの発達段階に応じた態度教育を進めます。 		
成果指標①	指標名・内容	大人が手本となって態度教育を推進	
	平成30年度の目標	園と家庭が連携しながら、保護者が手本となる態度（あいさつ、返事、食事のマナー等）を示し、子どもが身に付けられるようにする。	

	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園便りや懇談会等を通じて、保護者の協力が得られるよう働きかけた。 ・園外活動や来園者と接する機会では、保育者が率先してあいさつや会話を交わす姿を見て子どもも親しみを持ってあいさつ等を交わすことができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な態度として身に付くよう、繰り返し丁寧に指導・援助した。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への効果的な働きかけについて研究する。 		

重点的な取組	No.13	文化財の保護活用に努めます。	
	(1)-エ-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財や埋蔵文化財等の保護と調査・活用に努めます。 ・郷土資料館で企画展、講座を開催し、地域学習の機会提供に努めます。 ・あさもよし歴史館で企画展、体験教室を開催し、文化財への関心を高め、理解を深めるための講座を開催します。 		
成果指標①	指標名・内容	指定文化財及び埋蔵文化財の保護活用の推進	
	平成30年度の目標	指定文化財の増加に努めるとともに、文化財への理解・活用に努める。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財指定等件数は世界遺産1件、国指定4件、国登録23件、県指定29件、市指定68件。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産黒河道の災害復旧に努めるとともに、国登録文化財の登録への取り組みを推進した。 	
成果指標②	指標名・内容	郷土資料館における、地域学習の場としての各種事業の実施	
	平成30年度の目標	展示・講座の内容を工夫し、地域学習の推進を図る。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示、講座等を実施し、平成30年度の利用者数は5,765人。(人数は後日) 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		地域に根ざした企画展示・講座等を開催し、参加者から評価を得ている。	
成果指標③	指標名・内容	あさもよし歴史館における、文化財(考古資料)への関心の向上および理解の深化のための各種事業の実施	
	平成30年度の目標	展示・講座・体験教室の内容を工夫し、一層の文化財理解に繋げる。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示、講座、体験学習等を実施し、平成30年度の入館者数は1,027人。(人数は後日) 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを定めて企画展示・講座の開催に取り組んでいる。特に、夏の勾玉づくり等の体験学習は多くの参加者から好評を得ている。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市内の文化財の保護活用に努めていく。 		

重点的な取組	No.14	芸術文化の振興に努めます。
	(1)-エ-②	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財や埋蔵文化財等の保護と調査・活用に努めます。 郷土資料館で企画展、講座を開催し、地域学習の機会提供に努めます。 あさもよし歴史館で企画展、体験教室を開催し、文化財への関心を高め、理解を深めるための講座を開催します。 	
成果指標①	指標名・内容	世界遺産 黒河道の保全の取り組みの推進
	平成30年度の目標	世界遺産高野参詣道 黒河道の維持管理の体制づくりに努める。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道の高野参詣道 黒河道・京大坂道の橋本—高野山間のマップを10,000部作成した。 平成29年10月の台風21号の大雨により被災した黒河道の復旧に努めた。
	評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>黒河道の保全に努めることができた。</p>
成果指標②	指標名・内容	各種事業への参加者数
	平成30年度の目標	明確なテーマをもって取組み、来場者数増加を目指す。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年11月に3日間に渡り橋本市民総合文化祭を開催し、約2,000人の参加を得た。
	評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・例年並みの参加を得た。</p>
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 2021年に国民文化祭が和歌山県で開催されることもあり、今まで以上に芸術・文化の振興に努める必要がある。 	

重点的な取組	No.15	スポーツに親しむ場を提供します。
	(1)-エ-③	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 体育施設の充実及び利用促進を図ります。 和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への参加、小・中学校と連携した選手の育成に努めます。 橋本マラソンを開催し、出場者にはスポーツ大会に参加することの喜び・応援者には人のがんばりを喜びと感じる精神を養います。 	
成果指標①	指標名・内容	市民の健康の増進及び、体育の向上を図る取り組み
	平成30年度の目標	体育施設の貸し出しについて、ホームページ等で周知し、市民が気軽に運動に取り組めるような環境を作る。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度における施設利用者数は、無料施設で95,701人、有料施設で174,899人であったのに対し、平成30年度（4月～12月）の施設利用者数は、無料施設で96,184人、有料施設で142,448人であった。
	評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・災害復旧工事が完了したため、無料施設の利用者数が増加した。</p>

成果指標②	指標名・内容	ジュニア駅伝上位入賞に向けた取組	
	平成30年度の目標	スポーツ推進計画で定めた3位を目標とし、選手の力を最大に引き出すよう練習に取り組む。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・11月と12月は、土・日曜日に練習を実施。1月は水・木・土・日曜日で練習を実施。 ・第18回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会（2月17日開催予定）に出場し、県内29市町中第5位の成績であった。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標③	指標名・内容	橋本マラソンの参加人数拡大への取組	
	平成30年度の目標	広く広報活動を行い、スポーツ推進計画で定めた2,500人を旨す。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーは1,381人であった。 	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア駅伝に関して、市内の小・中学生の生徒数が減少するとともに、各個人の所属するスポーツクラブとの関係からジュニア駅伝に出場する選手の確保が困難になってきている。11月から2月上旬まで毎土曜日小学3・4年生を対象に走り方教室を実施し、未来の駅伝選手の発掘に努める。 		

重点的な取組	No.16	自然と触れ合える体験活動の充実を図ります。	
	(1)-オ-①		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において、体験活動を取り入れた環境教育を充実させ、一人一人が環境を大切に思う気持ちを育みます。 ・園においては、散歩や園外活動、飼育・栽培活動等を通して自然に触れ、豊かな感情を育てます。 ・「子ども冒険村」などの自然体験事業を促進します。 ・希少種の保護に取組み、環境学習の推進に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校教育における体験活動を取り入れた環境学習の実施	
	平成30年度の目標	内容を充実させるとともに実施校数の増加を目指す。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における（県）緑育推進事業の実施を支援。実施校も年々増加しており、今年度は12校16学年で実施し、次年度は10校13学年での実施を計画している。 ・各学校においても、環境保全に関する施設見学や校区内清掃等を通じて、身近なところから体験活動を取り入れて環境について学習する機会を設け、児童生徒の環境に対する意識向上に努めた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成

		・学校教育における体験活動を取り入れた環境学習を充実させることができた。	
成果指標②	指標名・内容	園外活動、飼育・栽培活動の充実	
	平成30年度の目標	園児の興味・関心を探り、実態に応じた活動内容の工夫をする。	
	平成30年度の実績	・実態に応じた活動内容の工夫ができた。地域との関わりを深めることにもつながった。 ・体験したことをごっこ遊びや行事につなげ、楽しむことができた。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>・教師は、園児の育ちを促す要素がたくさん含まれている体験活動であるという共通意識を持って取り組んだ。</p>	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標③	指標名・内容	「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施	
	平成30年度の目標	状況に応じた中で、安全面も考慮した最大人数で実施していきたい。	
	平成30年度の実績	・申込者55名の応募があり、55名全員の参加とした。 ・全国的な熱中症の事故もあった中、安全面を最大限考慮した運営をおこなうことができた。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>・希に見る猛暑日の中でも、安全面を重視した対応をとることにより、自然体験の事業を実施できた。</p>	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標④	指標名・内容	希少種保護と環境学習の推進	
	平成30年度の目標	希少種ヒメタイコウチの保全方策を策定していく。	
	平成30年度の実績	・天然記念物としてヒメタイコウチ生息地が指定されている自治体に施策について調査するとともに、市文化財保護審議会にこれを報告し、その方策について審議いただいた。今の段階では経過を観察していくことが望ましいとの審議会意見を受け、毎年生息調査を実施している。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>審議会の意見に基づき、継続的に生息調査を実施している。</p>	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等については、園外活動の下見、安全面の配慮等についての事前打ち合わせを引き続き丁寧に行い実施する。 ・「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施については、子どもが減少している中でも、依然として募集定員を満たしている。今後も魅力ある事業として継続していきたい。 ・希少種保護については、ヒメタイコウチ生息地のある他自治体の動向とともに、管内生息地の継続的な生息調査により経過を観察していきたい。 		

重点的な取組	No.17	郷土の偉人の足跡を紹介し、郷土愛を育みます。
	(1)-カ-①	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	・(仮称)岡潔記念館設置に向け、「岡潔博士顕彰事業」を開催します。	
指標	指標名・内容	(仮称)岡潔記念館の整備
	平成30年度の目標	記念館の整備と業績の顕彰に努める。

	平成30年度の実績	・岡潔顕彰寄附金として14名の方から合計金額365,000円の寄附金をいただいた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・クラウドファンディング含め、去年度以上の寄付となった。	
成果指標②	指標名・内容	岡潔博士顕彰事業の推進	
	平成30年度の目標	顕彰講演会を開催し、来場者数の増加のため、広報活動に努める。	
	平成30年度の実績	・岡潔博士の関係者を招いた講演会を開催し、約200名の来場があった。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・当初、想定していた程度の集客があった。	
課題・今後の方向性	・引き続き、岡潔博士の顕彰事業を行い、記念館設立のための資金を集め続けていきたい。		

重点的な取組	No.18	ふるさと学習のカリキュラムを作成します。	
	(1)-カ-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	・平成31年度から本格実施できるよう、カリキュラムを作成します。		
成果指標①	指標名・内容	「ふるさと学習」のカリキュラム作成	
	平成30年度の目標	地域の特色を生かした年間カリキュラムを作成する。	
	平成30年度の実績	・中学校区ごとの部会で、中学校区の地域の特色を生かした年間カリキュラムを作成した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・中学校区ごとの部会で、地域の特色（文化財・産業・自然・歴史・人物等）が分かりやすい形の年間カリキュラムを作成した。	
課題・今後の方向性	・ふるさと学習副読本「ふるさと橋本学」DVD版を平成30年度に完成させたが、学校での利用が進んでないように思われる。今年度末に学校に使用状況についてのアンケートとり、その結果を検討し、使用頻度が少ないようであれば、予算が必要となってくるが、紙媒体の副読本作成に取りかかりたい。		

重点的な取組	No.19	学力向上に努めます。
	(2)-ア-①	
担当部署	学校教育課	

<p>具体的な な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(市) 標準テストの実施とその結果分析から市や各校の課題を明らかにし、課題解決に向けて具体的に取り組みます。 ・学校において授業改善を図り、児童生徒の主体的な学びを目指します。(ユニバーサルデザイン化、共同的な学び、ICTの活用等、個々に応じた教育的配慮等) ・家庭学習を充実させるよう取り組みます。 ・外国語活動の推進と外国語教育の充実を図ります。 ・園においては主体的に遊ぶための環境構成の充実に努めます。 				
<p>成果指標 ①</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>各校における(市)標準テストの経年変化及び課題への対応</p>			
	<p>平成30年度 の目標</p>	<p>平成30年度も4月に実施し、課題を明らかにするとともに、10月実施の(県)学習到達度調査で県平均を上回る。</p>			
	<p>平成30年度 の実績</p>	<p>・4月に(市)標準テストを実施し、課題を明らかにし、課題解決に取り組んだ。しかし、10月実施の(県)学習到達度調査では県平均を上回らなかった。</p>			
	<p>評価</p>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">C</td> <td style="text-align: center; width: 50%;">A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・(市)標準テストでは、小学校においては、全国並みになってきている。 ・中学校においては、全国より少し低いが、上昇傾向である。 ・授業改善と家庭学習を充実させることでさらに学力向上を図りたい。 </td> </tr> </table>	C	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・(市)標準テストでは、小学校においては、全国並みになってきている。 ・中学校においては、全国より少し低いが、上昇傾向である。 ・授業改善と家庭学習を充実させることでさらに学力向上を図りたい。
C	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成				
<ul style="list-style-type: none"> ・(市)標準テストでは、小学校においては、全国並みになってきている。 ・中学校においては、全国より少し低いが、上昇傾向である。 ・授業改善と家庭学習を充実させることでさらに学力向上を図りたい。 					
<p>成果指標 ②</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>各校における授業改善の取組の把握と指導の充実</p>			
	<p>平成30年度 の目標</p>	<p>学校訪問等で授業を参観し、各校の取組の実態把握をするとともに、児童・生徒の主体的な学びとなるよう指導を行う。</p>			
	<p>平成30年度 の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問等で授業を参観し、各校の取組の実態把握し、必要に応じて、児童・生徒の主体的な学びとなるよう指導を行った。 ・橋本市内の研究主任を集めて「学力向上に係る研修会」を行い、福井県へ長期派遣の教員から報告を受け、家庭学習の充実について各中学校区ごとに話し合った。 			
	<p>評価</p>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">A</td> <td style="text-align: center; width: 50%;">A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問の参観では、和歌山の基礎・基本3か条をベースに、めあての提示、ふり返りの時間の確保、児童・生徒の学び合い等改善が見られた。 ・ICTの活用により、視覚的に分かりやすくする工夫が見られた。 ・組織的な取り組んでいる学校では学力向上の効果が現れているが、そうでない学校もある。 </td> </tr> </table>	A	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問の参観では、和歌山の基礎・基本3か条をベースに、めあての提示、ふり返りの時間の確保、児童・生徒の学び合い等改善が見られた。 ・ICTの活用により、視覚的に分かりやすくする工夫が見られた。 ・組織的な取り組んでいる学校では学力向上の効果が現れているが、そうでない学校もある。
A	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成				
<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問の参観では、和歌山の基礎・基本3か条をベースに、めあての提示、ふり返りの時間の確保、児童・生徒の学び合い等改善が見られた。 ・ICTの活用により、視覚的に分かりやすくする工夫が見られた。 ・組織的な取り組んでいる学校では学力向上の効果が現れているが、そうでない学校もある。 					
<p>成果指標 ③</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>特別支援教育の充実</p>			
	<p>平成30年度 の目標</p>	<p>児童生徒の実態を把握し、個々に応じた方法・内容で学習できる工夫をするよう指導を行う。</p>			
	<p>平成30年度 の実績</p>	<p>特別支援学級担当者研修会を実施し、特別支援学級における授業展開・授業作り等について研修した。<平成30年度から新規に指標設定></p>			
	<p>評価</p>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">B</td> <td style="text-align: center; width: 50%;">A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・研修としては日々の先生方の実践に役立つ内容であった。どれだけ活かしているかが問題。 </td> </tr> </table>	B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・研修としては日々の先生方の実践に役立つ内容であった。どれだけ活かしているかが問題。
B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成				
<ul style="list-style-type: none"> ・研修としては日々の先生方の実践に役立つ内容であった。どれだけ活かしているかが問題。 					
<p>成果指標 ④</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>各校における家庭学習時間の把握と啓発</p>			
	<p>平成30年度 の目標</p>	<p>児童・生徒の家庭学習の習慣の定着を目指す。アンケート調査等で好結果を目指す。</p>			
	<p>平成30年度 の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙」における「普段(月～金)の学校の授業時間以外の一日あたりの勉強時間が1時間以上である児童生徒の割合」が、小学生において増え、中学生においては少し低下した。 			

		B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の大切さを保護者につたえるために、各学校で「家庭学習の手引き」を作成し、配布している。また、「自主学習」の学習のしかたを掲示したり優れたノートを掲示したりと学校は取り組んでいる。中学校では終わりの会で、家庭学習の計画を立てさせたり、やり始めたりと対策をとっている。 	
成果指標⑤	指標名・内容	遊びの環境構成の工夫	
	平成30年度の目標	引き続き主体的に遊ぶための環境構成について研究し、充実を図る。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問の機会を生かし、こども園・保育園・幼稚園の保育者が互いの保育を見学し、物的な環境構成や、人的な環境である保育者の関わり方について協議できた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体性の育ちが就学後の学びへの意欲につながると捉え、研究に努めた。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学力が定着しているかどうかを早くから把握し、課題を分析し克服するためには、小学校4年生から実施できる学力調査が有効である。学校訪問等を通し授業改善について指導し、学力は全国平均に近づきつつある。今後も（市）標準テストを継続して経年変化を見ていきたい。 ・学力向上のためには「授業改善」や「教員の資質向上」が欠かせない。その支援の1つとして、講師を招聘しての研修会を行っていきたい。 ・幼児の主体的な姿とはどのような姿かについて、今後も園種を越えて話し合う機会を持ち、環境構成の工夫に生かしていく。 		

重点的な取組	No.20	体力向上に努めます。
	(2)-ア-②	
担当部署	学校教育課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業のより一層の改善を図ります。 ・乳幼児期の運動発達を促し、体力づくりを推進します。 	
成果指標①	指標名・内容	体育授業の交流
	平成30年度の目標	校種、学校間を超えて授業交流会を年間3回程度実施する。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校それぞれで授業交流会を1回ずつ実施した。 ・平成30年度全国体力・運動能力調査の結果では、(A・B判定) - (D・E判定)の値は小5男子、小5女子、中2男子、中2女子のいずれにおいても国の平均を上回った。
	評価	<p>B A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業交流会の回数は満たなかったが、小・中1回ずつの授業交流会で自薦交流を行なうことができた。全国調査の結果でもよい成績を残すことができた。
成果指標②	指標名・内容	発達年齢に沿った体力づくり
	平成30年度の目標	現状の取り組みを継続する中で、子ども一人一人の実態を見極め、それぞれに応じた運動発達を促す。

	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で取り組む運動遊びを日常的に計画し、楽しさを共有できるようにした。 ・幼児が自分なりの目標を持って、意欲的に運動遊びに取り組めるよう丁寧な関わりをした。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初と比較すると体力はついたが、中には、ある程度の時間の姿勢保持も難しい幼児もいる。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交流会をはじめとして、体力向上に向けて一層取り組む。 ・体幹を育てる運動遊びの工夫をする。 		

重点的な取組	No.2 1	教職員の資質向上に努めます。	
	(2)-ア-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象に研修会を開催します。 		
成果指標①	指標名・内容	「ブラッシュアップ講座」の研修会を開催	
	平成30年度の目標	「ブラッシュアップ講座」については、参加者を増やす。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・伊都地方4市町の教育委員会で連携しながら、主に若手教員向けの「ブラッシュアップ講座」、主にミドルリーダー層向けの「学校運営と教員の資質向上を目指す研修」をそれぞれ複数回実施し、教員の資質向上に努めた。 ・新学習指導要領、道徳教育、小学校プログラミング教育等の新しい教育課題等に対応するための研修会や教科指導の研修会を、他機関とも連携を図りながら実施し、教員の資質向上に努めた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・ブラッシュアップ研修については、教員が参加しやすい夏季休業中を選び実施したが、多数の参加者を得ることができなかった。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙化が問題となっており、教職員がじっくりと研修に参加することが困難になってきているが、今後も教員の資質向上のため、必要な研修会を精選して開催する。 		

重点的な取組	No.2 2	橋本市生涯学習推進計画に基づいた取組を進めます。	
	(2)-イ-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を発掘し、共育コーディネーターが地域の核になるための研修を実施します。 ・地域づくりの主体となる語り合いの場づくりを進め、具体的な行動につなげていきます。 		
成果指標①	指標名・内容	地域を創る話し合いの場づくりの積極的な展開	
	平成30年度の目標	社会教育の根幹となる地域住民の参加をより一層促していく。実施回数は全館で1回以上実施を目指す。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・共育ミニ集会を各地域で実施。 ・共育コーディネーターに対する研修を実施予定 ・紀見地区公民館の「4校交流会」、学文路地区公民館の「カフェマルシェ」等を行なった。 	

		B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共育ミニ集会については、各地域で実施。また2月に共育コーディネーターの研修を予定している。 ・ テーマが各館にて多少異なったが、概ね実施できた。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共育コーディネーターが地域の核となるには、資質向上も必要であるが、地域への共育コミュニティ、共育コーディネーターの役割の周知が必要である。テーマを持って実施できるように今後努めていく。 		

重点的な取組	No.23 (2)-イ-②	「すこやか橋本 まなびの日」事業を実施します。	
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康部門と教育部門が協力し、イベントを開催します。 		
成果指標①	指標名・内容	「すこやか橋本 まなびの日」イベント内容の充実と多くの参加者の確保	
	平成30年度の目標	当日参加者3,000人を目指し、教育と福祉が連携して取組む。実施スペースも限定されることから効率のいい出展を検討する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度「第10回すこやか橋本 まなびの日」は晴天にも恵まれ、当日参加者は3,030人にもものぼり、目標を達成することができた。 ・ 実施スペースについては、参画団体説明会で「大・中・小」から選択してもらうことで効率化を図ることができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度より健康部門と教育部門の双方で事務局の業務を負担して、今後も更なる連携を図りながら事業を充実させて展開していきたい。 		

重点的な取組	No.24 (2)-イ-③	地域の特性、歴史、文化を生かした交流事業を充実させます。	
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「盆踊り」、「ふるさと散策」を開催します。 ・ 伊都地方文化祭を開催します。 ・ 公民館まつりを開催します。 		
成果指標①	指標名・内容	地域住民がふれあえるイベントの実施数	
	平成30年度の目標	引き続きより魅力あるイベントの開催を増やしていく。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各館で夏祭り等を開催し、多くの来場者で賑わった。 ・ 盆踊り7館（内1館台風で中止）、ふるさと散策3館 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して続けていく。 		

重点的な取組	No.25	保育園・幼稚園・こども園と小学校との接続について、研究を進めます。	
	(2)-ウ-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校へのつながりを意識した幼児期の教育について、保育園・幼稚園・こども園が連携しながら研究に取り組めます。 ・幼児と児童の交流の場を計画的に設けるとともに、園と小学校の教職員の相互参観や研修の場を設定します。 		
成果指標①	指標名・内容	研究保育への参加	
	平成30年度の目標	互いの研究保育に積極的に参加し、保育園・幼稚園・こども園、学校の職員が就学前の保育・教育のあり方について共に考える。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園・保育園、公設民営こども園・保育園の職員は、引き続き互いの公開研究保育に積極的に参加し、就学前の保育・教育のあり方について共に考えることができた。 ・年度途中から私立こども園・保育園の職員も若干名参加した。 ・保育園・幼稚園・こども園・小学校の先生方が集まり、スタートカリキュラムを作成した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度から、幼稚園・こども園・保育園、それぞれの要領・指針に共通して記された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を園と小学校で共有し、研修を継続していく。 		

重点的な取組	No.26	小中一貫教育の充実に努めます。	
	(2)-ウ-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区において年間計画を立て、小中で連携した教育を目指します。 なお、橋本市における小中一貫教育の要件は以下の4点です。 (1) 小中で連携した教育目標の設定 (2) 教育課程及び指導内容・方法並びに形態の連続性 (3) 児童生徒の活動の連続性 (4) 教職員間の連携 		
成果指標①	指標名・内容	各中学校区において、小中連携型の一貫教育の推進	
	平成30年度の目標	全中学校区において、小中一貫教育の4要件を満たす取組を行う。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区において、教育目標をはじめ、特定の教科において連携や連続性がみられた。 ・児童生徒の活動についても連続するよう協議し、実践している中学校区もあった。 ・小中学校間で管理職の交流は月1回程度行われた。教職員間の連携については、異校種の授業を参観しているところもあった。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区で幼・保・小・中の連携が進みつつある。 		

課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の見学や地域一斉清掃等、各中学校区で幼保・小・中の連携が進みつつある。管理職だけでなく、先生方にも、小・中学校相互の授業を参観することで、学びの連続性について再認識できるので、さらに進めていきたい。
------------------	--

重点的な取組	No.27	教育環境の施設整備に努めます。	
	(2)-エ-①		
担当部署	教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 市立小中学校の適正規模・適正配置基本方針に基づき施策を進めます。 学校施設の長寿命化を計画的に行います。 学校施設の安全管理に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	計画的な大規模改修の実施	
	平成30年度の目標	H27・H28・H29・H30で応其小学校、H28・H29・H30で学文路小学校において行う。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 応其小学校の校舎の内部（教室の床・壁・扉、廊下や階段の床・壁等）の改修を行った。管理棟の1～3階のトイレ改修（洋式便器化、床乾式化）を行った。屋内消火栓（ポンプ等）の改修を行った。体育館のアリーナ床の改修、トイレへの洋式便器設置、多目的トイレの設置を行った。 学文路小学校は、校舎の内部（教室の床・壁、廊下や階段の床・壁等）の改修を行った。校舎3～4階の児童及び職員トイレの改修（洋式便器化、床乾式化）を行った。体育館のアリーナ床改修とトイレ改修（洋式便器化、床乾式化）を行った。 平成31年度から長寿命化改修（大規模改修）を予定している西部小学校の工事設計を委託事業により実施した。 トイレに洋式便器の少ない隅田中学校と紀見東中学校のトイレ改修を平成31年度から実施するため、工事設計を委託事業により実施した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度予定の工事内容を予定どおり完了した。応其小学校と学文路小学校については、平成30年度で大規模改修工事を完了した。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 応其小学校と学文路小学校の大規模改修は完了したが、築30年を超える学校施設は他にもあり、来年度以降も引き続き大規模改修工事を行っていく必要がある。市財政状況は引き続き厳しいため、補助金等を活用しつつ計画的な実施を行っていく。 		

重点的な取組	No.28	児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、就学援助を行います。	
	(2)-エ-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者及び特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、就学援助を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	国の基準に基づいた就学援助の実施	
	平成30年度の目標	必要な援助を平等に支給出来る方法を探る。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 小学校 要保護1名・準要保護420人 中学校 要保護3名・準要保護252（平成31年1月7日現在）を認定した。（市立小・中学校全児童生徒の15.37%） 市立小学校の特別支援学級全194人中 準要保護児童生徒援助費に48人、特別支援教育就学奨励費に123人を認定した。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校の特別支援学級全49人中 準要保護児童生徒援助費に23人、特別支援教育就学奨励費に21人を認定した。 ・平成30年度新中学1年生の新入学児童生徒学用品費を前年度の3月に支給することができた。なお、平成31年度新小学1年生新入学児童生徒学用品費について、前年度の平成31年3月の支給を予定している。
評価	A A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
	・国の基準に基づき、適正な時期に適正な支給ができた。
課題・今後の方向性	・保護者のニーズや国の動向等により、事務が繁雑になってきていることから、出来るだけ簡素化できるよう工夫しているところである。引き続き、研究・実施を心がけたい。

重点的な取組	No.29 (2)-エ-③	教職員や児童生徒の心身の健康保持に努めます。	
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病に対する予防保健活動の推進を図り、児童生徒等の心身の健康保持に努めます。 ・教職員のメンタルヘルスに関する取組の充実を図ります。 		
成果指標①	指標名・内容	学校長との面談	
	平成30年度の目標	職員の健康管理について校長面談の内容に盛り込む。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・校長面談や管理訪問で、職員の健康管理についてのヒアリングを行い、職場環境の状況を掴むことができた。 	
	評価	B A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	・各学校の教職員の健康状態や勤務状況を把握できた。
成果指標②	指標名・内容	がん教育の実施	
	平成30年度の目標	全市立小学校で、がん教育を実施する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・医師による出張授業を全市立小学校6年生及びその保護者を対象に実施した。 	
	評価	A A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	・昨年度実施できなかった出張授業を全市立小学校で実施できた。
課題・今後の方向性	・がん教育に関しては、専門家である医師の協力を仰ぎながら、引き続き全市立小学校で実施する。		

重点的な取組	No.30 (2)-エ-④	安定した学級運営を行うため、必要に応じて人的支援を行います。	
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の多人数学級において支援が必要と判断した場合に、非常勤職員を配置します。 ・学級において指導困難な状況であると判断した場合に、非常勤職員を配置します。 ・介助が必要な児童生徒が在籍し、人的支援が必要であると判断した場合に、特別支援教育支援員を配置します。 		

成果指標①	指標名・内容	非常勤講師等の活用状況の把握	
	平成30年度の目標	非常勤講師等の活用状況を確認するために配置校の訪問を行う。	
	平成30年度の実績	・配置校すべてを訪問し、非常勤講師（29名）の効果的な配置を確認することができた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
・配置している非常勤講師等の支援が安定した学級運営につながった。			
課題・今後の方向性	・各学校からのニーズが年々増加している現状であるが、人材確保が困難である。		

重点的な取組	No.3 1	総合的な学習の時間の充実を図ります。	
	(2)-オ-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	・ESDの視点で、全体計画及び年間計画を見直します。		
成果指標①	指標名・内容	総合的な学習の時間の実施状況把握と指導の充実	
	平成30年度の目標	ESDの視点で、総合的な学習の時間を実施する学校を増やす。そのための研修会を実施する。	
	平成30年度の実績	・積極的に研修会を実施することはできなかったが、奈良教育大学ESDコンソーシアムの行う研修への参加を促し、数名参加した。 ・そのことで、ESDの視点で総合的な学習の時間を実施できることを学べた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
・研修に参加することにより、ESDの視点で総合的な学習の時間を計画・実施することができるようになっている。			
課題・今後の方向性	・小学校は積極的に実施している、あるいは実施を考えている学校が増えてきたが、中学校については実施している学校はまだない。ESDの視点から年間指導計画を見直すことのために、ESDについての理解のための研修会を開きたい。		

重点的な取組	No.3 2	ESDを意識した各種研修会を計画、実施します。	
	(2)-オ-②		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	・ESDの視点で、全体計画及び年間計画を見直します。		
成果指標①	指標名・内容	ESDを推進するため、研修会等の実施	
	平成30年度の目標	各種事業の中でESDの視点の取組みもあるので、ESDの説明を入れ、理解を深める。	
	平成30年度の実績	・ESD推進のための研修会は実施できなかったが、紀の川の清掃事業の後に、子ども達を対象とした水生生物調査を実施した。川の清掃は、水生生物の存続にもつながり、環境を持続するためにも大切な行為であることを学べた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成

		・スポーツ少年団、ボーイスカウト、ガールスカウトの子ども達の参加を得て環境に関する取り組みを行うことができた。
成果指標②	指標名・内容	ESDを推進するため、研修会等の実施
	平成30年度の目標	研修会等を1回以上実施し、ESDの理解を深める。
	平成30年度の実績	・橋本市ESD連続セミナー（5回完結型）を実施し、約10名の教員が参加した。 ・奈良教育大学におけるESD成果発表会・実践交流会に参加した。
	評価	B
		・橋本市ESD連続セミナーに参加した教員は、熱心に取り組んだ。しかし、参加する教員が少なかった。また、ESDに取り組んでいる学校も4校と少ない。もっと市全体に広める必要がある。
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市ESD連続セミナーに参加する教員が少ない。本セミナーが勤務時間外での開催となり、教員の働き方改革に反している。ESDは持続可能な社会を生き抜くために必要であるので、ESDの視点を「ふるさと学習」に活かして行ければと思う。そのために、研修会の持ち方を考えたい。 ・ESDの実践校が少ないため、今後も教員の研修会を開催し普及に努めるとともに、よい実践例をたくさん紹介する機会をもちたい。そのためには、学校長研修会を開催し、理解を深めてもらう必要がある。 	

重点的な取組	No.33	「橋本市子ども読書活動推進計画（第2次）」に基づき、読書活動の充実に努めます。
	(2)-カ-①	
担当部署	学校教育課、生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書活動関係ボランティアの活動の活発化に努めます。 ・学校等における読書活動を推進します。 ・ブックスタート事業を引き続き推進します。 	
成果指標①	指標名・内容	一斉の読書時間の確保
	平成30年度の目標	全小中学校で一斉の読書時間の確保を目指す。
	平成30年度の実績	・小学校では1全校で読書の時間の確保ができています。中学校では数校が時間確保ができています。
	評価	B
		・中学校での読書時間の確保を目指すと共に、内容の充実についても力を入れる。
成果指標②	指標名・内容	学校図書館の開放日数・時間の確保
	平成30年度の目標	委員会活動等利用し、すべての小・中学校で毎日終日の開放を目指す。
	平成30年度の実績	・毎日ではないが、開放はすべての学校でされている。
	評価	C

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の管理という面からすると、終日の開放は難しい部分がある。学校図書館はいつでも開いているという感覚を学校に意識してもらえるよう働きかけることが必要であると感じている。 	
成果指標③	指標名・内容	各園の実態に応じた具体的目標の設定と取組	
	平成30年度の目標	各園、前年度の反省と課題を踏まえながら実態に応じた目標を設定し、取組状況を報告し合い、充実につなげる。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各園では、子どもの実態を踏まえて重点目標を設定して取り組んだ。また、保護者への啓発の具体的な取組について園長会で情報交換を行った。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児への取組は定着している。保護者への効果的な啓発の仕方については工夫の余地がある。 			
成果指標④	指標名・内容	ボランティアの活用	
	平成30年度の目標	学校や学校図書館担当職員とうまく連携し協働して活動できる工夫をする。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館ボランティアの方に向け、情報提供や研修の機会をもつ。 ・ボランティアの訪問日と学校図書館担当職員の訪問日を重ねることで、連携できた。 ・ボランティアと図書スタッフ、学校が連絡し合えるノートを活用した。 ・図書ボランティアが入っている学校では、学校を中心として、学校図書館担当職員との連携のための工夫を行っている。仕事内容の役割分担もできており、協働した活動ができてきている。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・2月に、図書ボランティアの方に向けた研修を開催予定。 ・さらに連携協働を進めていく必要がある部分がある。 			
成果指標⑤	指標名・内容	ユニバーサルデザインを取り入れた学校図書館	
	平成30年度の目標	だれもが利用しやすいすっきりした学校図書館の整理、図書の分類を行う。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの学校は学校図書の整理、分類ができています。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・より利用しやすい学校図書館を目指していく。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と図書スタッフでどんな学校図書館にしていこうかなどしっかり話し合える時間の確保が必要。 		

重点的な取組	No.34	市民に役立つ図書館づくりに努めます。
	(2)-カ-②	
担当部署	図書館	

<p>具体的な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や利用者のニーズに応じた図書館資料の収集と整理・保存及び情報提供に努めます。 ・親しみのある図書館サービス活動を展開します。 ・子どもの読書活動の推進に努めます。 ・地区公民館や学校及び図書ボランティアなどとの連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。 		
<p>成果指標①</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>資料の収集・整理・保存</p>	
	<p>平成30年度の目標</p>	<p>体系的な資料の整備を進める。</p>	
	<p>平成30年度の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・購入希望や話題の本、時事に関する資料を含め、新鮮な蔵書構成に努めた。 ・郷土資料の収集が進みつつある。 	
	<p>評価</p>	<table border="1" data-bbox="456 647 1401 707"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の協力により、現在「高野山麓橋本新聞」の収集に向けた取り組みを進めている。 ・郷土資料として体験記や見聞録の寄稿が2点あった。(内1点は執筆中) 	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
<p>成果指標②</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>主催行事の充実</p>	
	<p>平成30年度の目標</p>	<p>内容等に検討を加え、更なる充実を目指す。</p>	
	<p>平成30年度の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あかちゃんと絵本のひととき」が定着し、参加者が増えてきている。 ・「納涼お話会」参加者が本年度200名。大盛会であった。 ・市民の要望を取り入れ、新主催事業を開設した。 	
	<p>評価</p>	<table border="1" data-bbox="456 1093 1401 1153"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを対象としたお話会が充実してきている。 ・市民の図書館活動に対する関心の高まりが感じられる。 	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
<p>成果指標③</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>子どもたちの読書へのきっかけづくり</p>	
	<p>平成30年度の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習コンクールの継続実施に努める。 ・団体貸出制度の活用に向けて広報活動に努める。 	
	<p>平成30年度の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2回橋本市図書館を使った調べる学習コンクール」に市内小中学校16校から計442点の作品が提出された。 ・昨年度発行した「ぶっくんつうちょう」をとおして、子どもの現状・意欲が見えてきた。 ・ビブリオバトル中高生県予選大会が開催できた。 	
	<p>評価</p>	<table border="1" data-bbox="456 1512 1401 1572"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・「橋本市図書館を使った調べる学習コンクール」への参加校が昨年より倍増した。それに伴い作品の質も向上した。 	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
<p>成果指標④</p>	<p>指標名・内容</p>	<p>ボランティアの支援を募る</p>	
	<p>平成30年度の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の高校への周知に努める。 ・定期的にボランティアを募集する。 	
	<p>平成30年度の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7名が本の修理及び書架整理を手伝ってくれている。 ・一部主催行事へは常時2～3名協力してくれている。 ・高校生が放課後に配架業務を手伝ってくれている。 	
	<p>評価</p>	<table border="1" data-bbox="456 1868 1401 1928"> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの募集ができなかった。 	C
C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		

課題・今後の方向性	・市民との共働の下に内容を精査し、役に立つ図書館づくりに努める。
------------------	----------------------------------

重点的な取組	No.35	住民との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。
	(2)-キ-①	
担当部署	生涯学習課、学校教育課	
具体的な施策	・地区公民館や学校および図書ボランティア等との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。	
成果指標①	指標名・内容	市民ボランティアへの支援
	平成30年度の目標	各公民館とそこで活動するボランティアに有益な情報を提供し、活動の活性化を図る。
	平成30年度の実績	・市民ボランティア登録者のうち活動内容が「子ども・教育」の方の活動回数は延べ1,813名。(H30.12月集計時点)
	評価	B A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成 ・子どもたちに関わる事業に多くの方が参画してくださっている
成果指標②	指標名・内容	学校図書館の開放日数・時間の確保 (No.33-成果指標②と同じ)
	平成30年度の目標	委員会活動等利用し、すべての小・中学校で毎日終日の開放を目指す。
	平成30年度の実績	・毎日ではないが、開放はすべての学校でされている。
	評価	C A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成 ・学校図書館の管理という面からすると、終日の開放は難しい部分がある。学校図書館はいつでも開いているという感覚を学校に意識してもらえるよう働きかけることが必要であると感じている。
課題・今後の方向性	・今後も住民との連携協力を進め、生涯学習活動の支援に努めるが、具体的な施策や成果指標の設定については検討していきたい。	

重点的な取組	No.36	スポーツ推進計画に基づき、体力向上に努めるとともに、生涯スポーツに繋がる基礎を培います。
	(2)-キ-②	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての市民が気軽にスポーツに参加できる環境の整備に努めます。 ・スポーツにふれあうことにより、健康な人づくり、元気なまちづくりを推進します。 ・学校・各種団体と連携し、指導者・選手の育成や競技力の向上に努めます。 ・生涯スポーツやレクリエーション活動を通して、人々の健康増進と交流を深めるため、次の事業を行います。 	
成果指標①	指標名・内容	中央並びに地区公民館のスポーツ大会や健康増進行事への参加者数
	平成30年度の目標	参加者数、前年比10%増を目指す。
	平成30年度の実績	・スポーツ大会や健康増進行事への参加者数をH30とH29で比較すると、11%の伸びを示し、市民グラウンドゴルフ交流会は290名の参加があった。
	評価	A A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成

		継続して続けていく。	
成果指標②	指標名・内容	市民ニーズに応じたスポーツをし易い環境整備	
	平成30年度の目標	施設利用者等のニーズに応じて、可能な限り用具等の充実を図る。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 橋本市運動公園夜間照明制御設備更新修繕を実施した。 南馬場緑地及び神野々緑地の被災箇所について災害復旧工事を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者及び職員が怪我することのないよう環境整備を行なった。	
成果指標③	指標名・内容	スポーツイベントを通じた地域交流の促進	
	平成30年度の目標	スポーツイベントを開催する際に、参加する人・見る人・支える人等が大会を通じて交流できるような仕組みの構築を目指す。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 第22回橋本マラソン大会を開催する。 スポーツ少年団・体育協会などの団体と連携を取りスポーツイベントを開催した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・参加者だけでなく多くのボランティアスタッフまた沿道からの応援者とともに一体となり橋本マラソンを盛り上げる。	
成果指標②	指標名・内容	身体能力や技術力の向上を目指す組織作り	
	平成30年度の目標	体育協会・スポーツ推進員・スポーツ少年団との連携を強化し、指導者・選手の育成に努める。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団体力テストや市のスポーツイベントに協力した。 スポーツ少年団理事会・総会等を開催。体力づくり&交流会、研修会等も実施し、指導者、団員の育成に努めた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・今後もスポーツ推進員と連携しスポーツ少年団体力テストを実施する。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者が怪我することのないよう細心の注意を払い、事後保全とならないよう予防保全を心掛ける。 		

重点的な取組	No.37	食に関する指導の充実に努めます。
	(2)-ク-①	
担当部署	学校給食センター	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 学校における食育の充実を図ります。 家庭との緊密な連携のもと、子どもの健全な成長、発達に不可欠な食生活の充実を図ります。 学校と給食センターとの連携を密にします。 	
指標成果	指標名・内容	学校給食の献立表を工夫し食に関する情報発信
	平成30年度の目標	現状としても工夫しているが、さらに工夫をした献立表を作成する。

	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地元食材、行事食の紹介やマナーなど食に関する様々な情報を掲載した献立表を毎月配布した。また、橋本市のラインにも掲載を行い、活用しやすい形態とした。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての保護者の方に食の大切さを理解して頂き、実施してもらうことは困難であるが、ラインを活用し目に触れる機会は増やすことが出来た。 	
成果指標②	指標名・内容	栄養士等による「食に関する指導」の実施	
	平成30年度の目標	新学校給食センターの開設に伴い、方法について検討を行い、実施を目指す。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内15校の6年生を対象にバイキング給食を計画し、バイキング給食実施時に栄養士の講話を行い、食の大切さの意味を十分理解してもらった。 ・地場産食材活用推進のため城山小学校で給食時に生産者との交流会を実施した。 ・給食センター見学時や授業の中で調理の様子を紹介し、残食を減らすよう指導を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも、アレルギー対応（レベル3）の開始に伴い、栄養士の業務増大によりバイキング給食は廃止する予定だったが、廃止についての反響が大きく、実施に踏み切った。 	
成果指標③	指標名・内容	給食試食会の実施	
	平成30年度の目標	本年度も実施し、保護者の学校給食についての意識を高める。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校1年生の保護者を対象に給食試食会を実施し、センターの施設概要、学校給食の内容・目標・安全（今年度は特にアレルギー食）について説明し、意見交換を行った。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、学校給食全般の説明はでき、加えてアレルギー除去食対応の説明も簡単ではあるがすることができた。 	
成果指標④	指標名・内容	市栄養士による園訪問（観察・指導）	
	平成30年度の目標	各園の訪問回数を増やす。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園4園、保育園6園の訪問を実施した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、園児への適切な食事提供の仕方や衛生面への配慮について会議を持ち、共有した。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者が生徒や保護者で学校に出向くことが多くなり、現体制での実施が困難である。方向性としては現在の事業は実施していくが実施方法を検討していく必要がある。 		

重点的な取組	No.38	学校給食における食物アレルギー対応を実施します。
	(2)-ク-②	
担当部署	学校給食センター	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応の方法について検討し、充実を図ります。 	

成果指標①	指標名・内容	学校給食における食物アレルギー対応の実施	
	平成30年度の目標	平成30年度9月から新学校給食センター開設に伴い、卵アレルギー除去食を実施する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 作成した食物アレルギー対応基本方針・対応マニュアルに基づき、除去食対応（ランチジャーによる）を月に1度、加工品で卵の使用されている食材の加工品を除く対応を月に1度、実施した。 アレルギー対象者（レベル3）にアレルギー通信を配布し、情報提供を行った。 H31年度の卵アレルギー除去食希望者（新入生）2名に対して個別面談を実施した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> センター稼動と同時に新たなアレルギー対応（レベル3）の実施となった。この評価については対応品目は1品目の「卵」のみですが、誤りの許されない対応となります。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、市民からの要望は増すばかりで、人員の確保（特に栄養士への業務負担増）は深刻な課題である。 		

重点的な取組	No.39	地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業を実施します。	
	(3)-ア-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習による人づくり・地域づくりのために市民のつながりを大切にし、学校・家庭・地域の連携を促す取組を推進します。 放課後子ども教室推進事業を推進します。 共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業が持続可能とできるような実施形態の見直しを検討します。 コミュニティづくりに寄与する取組や実践を共有し、活性化に働きかけます。 		
成果指標①	指標名・内容	橋本中央中学校区、紀見北中学校区における「共育コミュニティ」の立ち上げ	
	平成30年度の目標	(平成29年度末に目標達成済み)	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 29年度中に関係者で協議を重ね、「橋本地域共育コミュニティ本部」「山田地域共育コミュニティ本部」「紀見北中学校区共育コミュニティ本部」が平成30年4月に発足し、活動を開始した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> 当初の目標を達成し、市内全域で「共育コミュニティ」が立ち上がった。 			
成果指標②	指標名・内容	地域共育コミュニティ形成促進事業	
	平成30年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方への周知のために、共育コミュニティのチラシを作成し、地域支援者養成講座などで配布をした ボランティアの方に向けた学校支援のまとめを作成予定 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成

		<ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続するためには、幅広い年代の方に活動を知ってもらう必要があるため、今後も共育コミュニティについて周知をはかっていく。 	
成果指標③	指標名・内容	放課後子ども教室推進事業	
	平成30年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施延べ回数 406回 ・参加児童延べ人数 7,398名 (H30.12月集計時点) ・地域の方への周知のために、ふれあいルームのチラシを作成し、地域支援者養成講座などで配布した ・共育、ふれあいルームのコーディネーター間の情報共有のため相互の会議録を配布している。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの安心安全な居場所としての放課後ふれあいルームの運営には学校・地域の協力が不可欠な為、ふれあいルームの周知をさらにはかっていく。 			
成果指標④	指標名・内容	こどもの居場所づくり事業	
	平成30年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施延べ回数 52回 ・参加児童延べ人数 549名 ・小学校3箇所、中学校1箇所、公民館2箇所で開催 (H30.12月集計時点) 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から隅田中学校での学習支援が始まり、活動場所が増加した。ボランティアや参加者の確保に苦慮しているところもあるため、事業の案内・募集方法を検討していきたい。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業の運営には学校・地域での認知と理解を得ることが必要であり、今後さらに周知をはかっていく必要がある。また各学校でコミュニティスクールができていく中で具体的にどのような連携をはかっていくかが課題である。 		

重点的な取組	No.40	学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールを目指します。
	(3)-イ-①	
担当部署	学校教育課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校に学校運営協議会を設置します。 	
成果指標①	指標名・内容	学校運営協議会の設置
	平成30年度の目標	学校運営協議会規則を策定し、市内全小中学校に学校運営協議会を設置する。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内すべての小・中学校に学校運営協議会を設置し、橋本市学校運営協議会規則を策定した。

	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・平成31年度からの施行に向け規則改正等ができた。	
課題・今後の方向性	・平成31年度から橋本市学校運営協議会規則によるコミュニティスクールを設置します。		

重点的な取組	No. 4 1 (3)-イ-②	学校評価の実施と結果の公表を行います。	
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、自己評価の実施と公表を行います。 ・学校は、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善に生かします。 ・教育委員会は、学校評価の結果を学校に対する支援に生かします。 		
成果指標①	指標名・内容	各校の学校評価分析と支援の充実	
	平成30年度の目標	前年度における各校の学校評価を分析し、本年度の学校運営に活かせるよう支援を行う。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の学校評価は、全体的に見て、保護者や学校関係者等からは高評価を得ている。 ・評価の低かった項目については、各校にて改善策を考え実践するよう指導した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・評価の低かった項目として、「家庭での学習習慣や読書習慣」が挙げられる。市として家庭学習の習慣づけのために、研修会を開いたり、学校訪問等で指導したりしてきた。少しずつ改善が見られる。	
課題・今後の方向性	・コミュニティスクールの導入もあり、より地域に開かれた学校づくりが求められるようになってきている昨今、学校と地域がどちらもWinWinの関係になることがよりよい取組を長く続けられることになるので、その方策を考えていきたい。		

重点的な取組	No. 4 2 (3)-イ-③	保護者や地域社会に学校情報を発信します。	
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	・H.P（学校ウェブサイト）や学校だより等、様々なメディアを通じて学校の取組や考え方を知らせることにより、教育活動に対する理解と参画を進めます。		
成果指標①	指標名・内容	各校のHPや学校だよりによる学校評価・スクールプランの公表	
	平成30年度の目標	全学校でスクールプランをHPで公表する。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校ではHPの更新を行い、学校生活の様子を発信した。 ・学校評価の結果については、紙媒体又はHPで公表した。 ・スクールプランについては、HPで公開している学校がある。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・各学校ではHPや学校便りをとおして、学校の取組や児童生徒の活動の様子を発信している。 ・11月の学校開放月間では、4,619人の保護者や地域の方が来校するなど地域に開かれた学校となっている。 ・学校評価の結果やスクールプランについては、紙媒体又はHPで公表して 	

		いる。HPでの公開は、学校評価については25%、スクールプランについては、5%であった。	
成果指標②	指標名・内容	園便りやH.P等による情報発信	
	平成30年度の目標	各園の実情に応じた方法で、保護者や地域の人に分かりやすい伝え方の工夫をする。	
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園のH.Pは、リアルタイムの情報が伝わるよう更新に努めた。 ・園便りや通信では、子どもの具体的な姿から、園の保育方針を感じ取れるよう工夫した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
・地域の人への情報発信については園により違いがあり、工夫の余地がある。			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組を、早く、広く知ってもらうために、HPの充実は今後も必要になってくる。学校の取組をまとめた簡潔にまとめたスクールプランの公表が有効であるとする。その公表率をあげていきたい。 		

重点的な取組	No.4 3	学校開放を実施するための検討を行います。
	(3)-イ-④	
担当部署	学校教育課、生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放に向けた検討のための会議を開催します。 ・地域の教育力を学校教育に生かすための方針を作成します。 	
成果指標①	指標名・内容	学校開放検討会議の開催
	平成30年度の目標	検討会議を開催し、学校開放のための方針を作成する。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校開放検討会議は開催していない。
	評価	D
・検討会議は開催しておらず、学校開放のための方針も作成できていない。		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放検討会議の開催という形ではなく、今後は「共育コミュニティ」や「コミュニティスクール」の取り組みを推進し、学校と保護者や地域の皆さんが知恵を出し合い、協働して、子どもたちの豊かな成長を支える取り組みを推進する。 	

重点的な取組	No.4 4	橋本市ボランティア登録制度による市民ボランティアの活用等により学校と地域住民や民間団体をコーディネートします。
	(3)-イ-⑤	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアの活用を図ります。 	
指標成果	指標名・内容	市民ボランティアの活用 (No.35-成果指標①と同じ)
	平成30年度の目標	各公民館とそこで活動するボランティアに有益な情報を提供し、活動の活性化を図る。

	平成30年度 の実績	・市民ボランティア登録者のうち活動内容が「子ども・教育」の方の活動回数は延べ1,813名（H30.12月集計時点）		
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	
課題・今後の方向性		・子どもたちに関わる事業に多くの方が参画してくださっている		
		・幅広い年代の方がボランティア活動に参画できるよう活動の周知をはかっていく。		

重点的な取組	No.45	地域と連携した安全教育を推進します。	
	(3)-ウ-①		
担当部署	学校教育課、教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校において、防災訓練を実施します。 ・交通安全、生活安全等、安全に関する指導の充実を図ります。 		
成果指標①	指標名・内容	火災、地震等災害別の防災訓練の実施	
	平成30年度の目標	年2回災害別の防災訓練を実施する。	
	平成30年度の実績	・各学校で、年2回の防災訓練と、年1回の防犯訓練を実施した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	通学路の安全点検	
	平成30年度の目標	橋本市通学路交通安全プログラムに則り、通学路の安全点検を実施する。	
	平成30年度の実績	・橋本市通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関による通学路合同点検を実施し、安全対策が必要な箇所を10ヵ所追加した。プログラムに掲載の要対策箇所は合計69ヵ所となり、そのうち対策済の箇所は51ヵ所となった。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全対策については、「通学路交通安全プログラム」に基づき点検等を実施し、ハード面で対策可能な場所はできるかぎり対応しているが、対応できないものも多くあるため、引き続き、児童生徒への安全教育・安全指導や、地域の見守り等のソフト面での安全対策を充実することが重要である。 		

重点的な取組	No.46	青少年育成市民会議の活動の推進に努めます。
	(3)-ウ-②	
担当部署	生涯学習課	

具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成を阻害する環境の浄化に努めます。 ・社会を明るくする運動を推進します。 ・子ども・若者の社会的自立支援の促進に努めます。 ・青少年の健全育成活動の推進と充実に努めます。 	
成果指標①	指標名・内容	登下校時の見守り活動の実施
	平成30年度の目標	500名の見守りボランティアの登録を維持する。
	平成30年度の実績	・平成30年度の見守りボランティア登録者は、493名となり、目標達成率は98.6%に及ぶ。 (12月末時点)
	評価	<p style="text-align: center;">B A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・防災行政無線を活用しながら、多くの見守りボランティアの方々が街頭に立たれて、子ども達の安全を確保した。</p>
成果指標②	指標名・内容	子どもを守るための啓発活動・講演会の実施
	平成30年度の目標	引き続き各中学校区での研修会等の実施と各健全育成会と連携して講演会等を実施する。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本中央中学校区…教育講演会、平成30年12月8日、46名参加 ・紀見東中学校区…講演会、平成31年2月19日 ・紀見北中学校区…講演会、平成31年2月10日 ・高野口中学校区…教育講演会、平成31年1月13日、70名参加 ・隅田中学校区…発表会、平成30年12月8日、400名参加 (12月末時点)
	評価	<p style="text-align: center;">A A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>・各中学校区で講演会等を開催し、多数の方が参加された。</p>
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる青少年健全育成の充実に努めるために、学校・家庭・地域が一丸となって取り組んでいきたい。 	

重点的な取組	No. 4 7	地域の学びの場として、公民館主催行事を充実させます。
	(3)-ウ-③	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが数学及び科学への興味や関心を持つように努めます。 ・生涯にわたって心豊かに学べる講座、教室、交流会を開催します。 ・人と人との交流を深めるとともに、健康維持の増進に努めます。 	
成果指標①	指標名・内容	「おもしろ算数・数学教室」、「低学年のための親子算数教室」、「岡潔博士顕彰事業」、「低学年のための親子科学教室」の開催
	平成30年度の目標	各事業広報活動を行い、参加者増を目指す。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろ算数・数学教室」8回開催、参加者69名 ・「低学年のための親子算数教室」8回開催、参加親子238名 ・「岡潔博士顕彰事業」講演会を開催、150名の来場者 ・「岡潔博士顕彰事業」囲碁大会を開催、参加者32名 ・「岡潔博士顕彰事業」将棋大会を開催、参加者34名 ・「低学年のための親子科学教室」10回開催、参加親子20組
	評価	<p style="text-align: center;">A A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p>

		・これからも継続できるように努める。年度途中で科学教室以外は文化係対応となる。
成果指標②	指標名・内容	橋本市民大学いきいき学園などの開催
	平成30年度の目標	学ぶだけでなく、学生自身が講師となり、教える側・学ぶ側との相互学習の機会を組み入れ、生涯学習として取組む。
	平成30年度の実績	・毎回の講座では講師として前に立ってもらう事は出来なかったが、地域や各学年のHR等で生徒同士が相互学習の場を作っている。
	評価	B
・概ね達成できたが、今後は学生が主体となった取組を取り入れたい。		
成果指標③	指標名・内容	グラウンドゴルフ大会やハイキングなど、スポーツ・レクリエーションの開催
	平成30年度の目標	高齢者向きの取組が多く、参加者も多いが、若年層向けの事業を開催する。
	平成30年度の実績	・グラウンドゴルフ交流会に290名の参加があった。 ・その他各地区公民館の事業にも多くの来場があった。
	評価	B
・子どもの居場所づくりとして将棋教室やピンポン教室等の事業を行なっている。今後も、若年層の向け事業を開催していく。		
課題・今後の方向性	・事業内要を精査しながら、今後も継続して取組んでいく。	

重点的な取組	No. 4 8	家庭教育支援相談室を活用し、福祉と教育の連携を深めます。
	(3)-エ-①	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援・子育て支援の団体の連携を推進します。 ・家庭教育支援・子育て支援等の団体が連携することにより、子育て等の悩みの解消に努めます。 	
成果指標①	指標名・内容	「家庭教育支援相談室」の活用
	平成30年度の目標	部屋の稼働率90%を目指す。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市子どものための教育福祉連携会議や家庭教育支援チームへスティアによる会議、個別相談などで「家庭教育支援相談室」を使用した。 各団体の使用回数合計：161回 【部屋の稼働率】 161回÷275日＝58.5% (使用回数合計/日数) (H30.12月末現在)
	評価	C
・H30.12月末現在での、部屋の稼働率は58.5%と目標値よりも低い結果である。家庭教育支援チームの利用がほとんどの中、福祉部局との連携会議等についての利用があまり見られていないと感じる。		
課題・今後の方向性	・家庭教育支援チームの活用は多く見られるが、その他子育て等の団体の活用があまり見られていないので、当課が関係する子育て支援関係者等に部屋が利用できることを周知していきたい。	

重点的な取組	No.49	学童保育の充実に努めます。
	(3)-エ-②	
担当部署	教育総務課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の資質向上に努めます。 ・施設的环境整備に努めます。 ・学童保育の質的向上をはかるため、NPOへの加盟を推進します。 	
成果指標①	指標名・内容	学童保育の充実
	平成30年度の目標	学童保育の施設不足について学校と協議し、解消を目指す。
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・隅田小学校において、学校と協議の上、放課後に教室を開放してもらい学童保育所として対応した。 ・あやの台小学校において、施設の不足を解消するため、第3学童の建設に取り組んだ。
	評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設不足の解消のために上記のとおり取り組み、待機児童はゼロとなっている。
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・運営団体と協調しながらより良い学童保育の発展を図る。 	

重点的な取組	No.50	学校プラットフォーム化の推進に取り組みます。
	(3)-エ-③	
担当部署	学校教育課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの課題を早期発見するため効果的なスクリーニングのあり方を研究します。 ・学校に福祉的視点を取り入れ、福祉サービスや地域資源を有効に活用する事例研究を進めます。 ・地域から子どもに関する情報が集まる仕組みづくりを進めます。 	
成果指標①	指標名・内容	学校プラットフォーム化の推進
	平成30年度の目標	<p>研究校を指定し、スクリーニング・ケース会議等の効果的なあり方について研究する。</p> <p>福祉サービスや地域資源を活用し、子どもの課題解決に取り組む。</p>
	平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・城山小学校、学文路小学校をモデル校として、スクリーニング・ケース会議を実施。 ・学文路小学校で地域人材を活用した、朝食こども食堂を開設した。
	評価	<p style="text-align: center;">C</p> <p style="text-align: center;">A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2校の教職員にスクリーニングによる子ども状況把握について学んでもらうことができた。 ・地域人材と活用した学校運営が活発化することができた。
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、橋本市内の2校をモデル校としてスクリーニングシートの活用を行っている。スクリーニングチェックを行い、教職員間で意見交換を行う上では非常に有効であったが、これをもとに、全校児童を把握し、「地域資源」や「専門機関」に振り分けてつなぐ、という点については今後の課題として残った。 ・学校に、地域資源や専門機関に児童をつなげていくという意識をまだ高くなく、今後は、行政機関や地域人材とも子どもの課題を共有しながら、「地域資源」や「専門機関」を活用する道筋をつけていく必要がある。 	

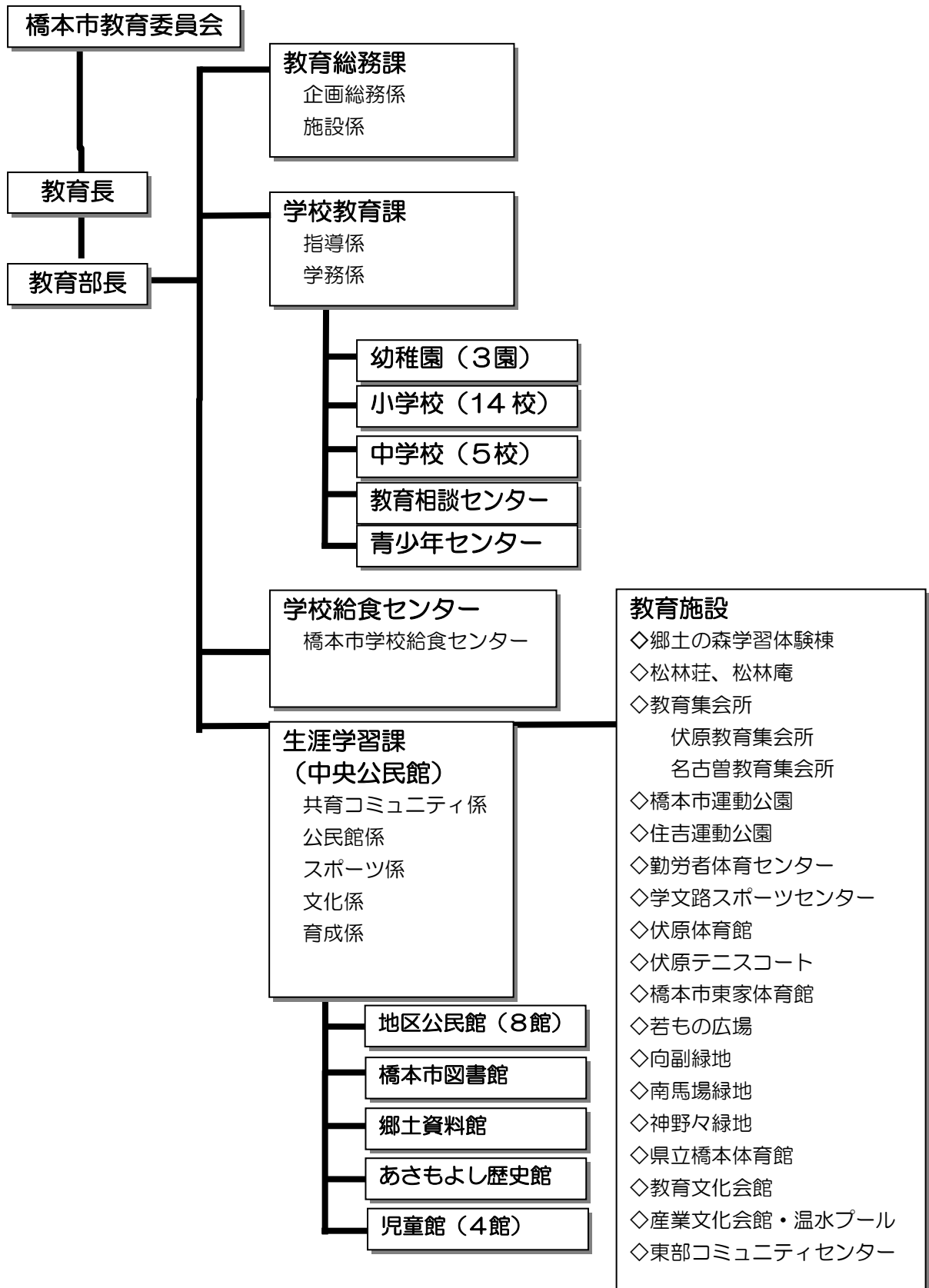
	<ul style="list-style-type: none"> ・また、学校を拠点として子どもを支援する「学校プラットフォーム化」の理念についてもひろく地域住民に広報していき、地域資源の拡充を図る必要がある。 ・スクリーニングシートの活用についてはマニュアル化し、市内全域で活用できるようになることを目標とする。
--	---

重点的な取組	No.5 1	スマートフォン・携帯電話を正しく使う取組として、家庭と学校が連携してスマートフォン等の弊害の解消に取り組めます。	
	(3)-オ-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	各校とも、必ず年1回、学習会を実施していく。		
成果指標①	指標名・内容	ネットモラルに関係した研修会の開催	
	平成30年度の目標	各校とも、必ず年1回、学習会を実施していく。	
	平成30年度の実績	・各校種々の機関から講師を招きネットモラルに関する学習会を実施した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	ネット利用に関するアンケートの実施	
	平成30年度の目標	児童生徒のネット利用の実態を把握し、ネット依存に陥らないよう指導する。	
	平成30年度の実績	・児童生徒、保護者対象にネット利用に関するアンケート結果から、現状を把握し、指導方針を定めることができた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	・小学校低学年が所持する割合の増加に伴い、今後保護者に対してのネットモラル等の学習会や研修会の充実させていく必要がある。		

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 橋本市教育委員会機構図

(平成31年4月1日現在)



2 教育委員会の会議等の活動状況

(1) 橋本市教育委員会委員(平成31年4月25日現在)

職名	氏名	教育長・委員就任年月日
教育長	小林俊治	平成30年4月25日
教育長職務代理者	米田恵一	平成29年4月22日
委員	田中敬子	平成29年4月22日
委員	中尾悦子	平成31年4月22日
委員	吉田元信	平成30年4月25日

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回定例会を、また、必要に応じて臨時会を開催している。このほか、事前協議等のための会議を開催している。

- ① 平成30年度開催状況 定例会 12回 臨時会 2回 事前会議 12回
- ② 定例会及び臨時会の議案等件数 付議事項 34件 報告事項 31件
- ③ 付議等の主な内容

教育行政の基本計画・基本方針に関すること。

教職員の人事、服務に関すること。

附属機関の委員の任免並びに委嘱及び解嘱に関すること。

条例、規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること。

教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る公表等に関すること。

教育委員会の行う表彰その他の重要な表彰に関すること。

(3) 教育委員の活動状況(教育委員会会議以外の主な活動)

- ① 教育委員会連絡協議会総会、研修会等の各種会議に出席
- ③ 学校等において開催された研究会や教育講演会等に出席
- ④ 小中学校運動会や文化・スポーツ行事へ出席
- ⑤ 表彰式、記念式典等に出席
- ⑥ 市立小学校、中学校の卒業式に出席
- ⑦ 定例市議会に出席

(4) 教育功労賞

次の部門において、著しく功績あった方に対し表彰を行い、功績を称えた。

- ① 学校教育 4名
- ② 社会教育 1名

IV 関連資料

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋

第二十六条 (一部省略)

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条の規定に基づき、橋本市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第 2 条 教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その成果及び課題等について自ら評価するものとする。

(学識経験者等の知見の活用)

第 3 条 教育委員会は、点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、点検及び評価の実施方法並びにその内容等について意見を聴取するなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(点検及び評価の結果の活用)

第 4 条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案等、効果的な教育行政の推進等に活用するものとする。

(市議会への報告等)

第 5 条 点検及び評価の結果については、報告書を作成して市議会へ提出するとともに公表するものとする。

(その他)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項については、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年10月8日から施行する。